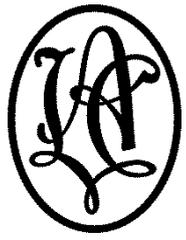


2019



J-A-C

(第 46 号)



平成 31 年 4 月発行

日本山岳会千葉支部

発行者 三木雄三

編集者 吉野 聡

事務局 〒283-0116

山武郡九十九里町西野672-2

三木雄三方

T E L

E-Mail

(表紙の絵)「原生花園」

水彩画 小菅一弘 作 (敬称略)

## 内浦山で第 12 回・四支部合同懇談会

12 月 16・17 日 三田 博

温暖な早春の房総へようこそ。ことしで 12 回目となる四支部合同懇談会が、2 月 16、17 日に鴨川市の「内浦山県民の森」で開かれた。今回は千葉支部が主催で、千葉・茨城・栃木・群馬の 4 支部から 47 名が参加した。

初日は、三木支部長の歓迎挨拶に続き、各支部の今年度活動報告をおこなった。当支部は、郡界尾根の踏査完了など説明した。各支部からは山の講演会や健康登山塾など、それぞれ活発な活動報告があった。栃木支部からは、今秋予定している南米エクアドルへの交流登山計画が発表された。

続いて行われた講演会は、松田宏也副支部長によるミニヤコンカ奇跡の生還の一部始終が「生きて還って、また登る」と題して行われ、その壮絶な体験談は参加者から大きな拍手を浴びた。続いて、会友・吉田明子さんは「南房総の自然と見どころ」と題した講演で、鴨川周辺の植物や動物の生態をスライドを使って分かりやすく説明した。

懇親会では、房総でとれた新鮮な魚介に舌鼓を打



ち、各支部が持ち寄った日本酒が次々と開けられ、毎回参加する人も初めての人も打ち解けて和やかに談笑した。

翌 17 日は、宿泊した県民の森のテラスで記念撮影した後、内浦山から麻綿原を経由して清澄寺へ行く登山コースと、日蓮ゆかりの誕生寺見学や菜の花摘みなどの観光コースに分かれて行動した。生憎の曇り空で肌寒かったが、両コースは清澄寺で無事合流し、境内でお弁当を広げた後、内浦山へ戻った。最後に三木支部長より挨拶があり、来年の茨城支部での四支部懇談会での再会を約束して解散した。

《千葉支部参加者は ページ》

## 栗又の滝から養老溪谷、そしてチバニアン

平成 30 年 12 月 9 日 (日)

竹内進

昨日のハードだった郡界尾根山行最終回、その夜の打ち上げ兼忘年会から一夜が明け、宿の内浦山県民の森から所長さん自らが運転するマイクロバスで養老溪谷栗又の滝入口駐車場に、10 時前、総勢 23 名で出発。日射しは無いが、薄曇りの穏やかな天候の中、観光客に交じって県道から栗又の滝に下る。水量多く見応えがある。残っているイロハモミジの紅葉を所々に見ながら滝から左岸に



付けられた栗又の滝自然遊歩道を下流に向かう。遊歩道は水面から 1 メートル程度の高さに設けられていて、平らで道幅もあり歩き易く、養老川の滑床を滑り下る流れを間近に眺められる。季節の性か魚影は見かけなかったが、距離も 2 キロ強と十分に楽しめた。途中には避難口とその場所を示す案内板も設置されていた。兩岸が切り立っているのも、急激な水位上昇に備えて避難場所の位置が示されていることは利用者にとって重要だと感じました。10 年前の平成 20 年 7 月に六甲山都賀

参加者

山口文嗣、岩尾富士夫、高橋琢子、三品京子、山田紀夫、高橋正彦、小川和敏、柳下忠義、塩澤厚、松田宏也、吉野聰、三田博、平出正美、鈴木操、竹内進、小林義亮、神山良雄、渡部孝雄、三田芳江、廣村恵美子、湯下正子、小澤けい子

計 22 名

川の親水施設で局地的な集中豪雨による水位上昇が起き、逃げ遅れた 5 人の方が亡くなった事故が思い出されます。ほぼ水平な道だが川に沿って下っていたので、遊歩道終点から上の車道まではかなりの登り。登り切った先には焼き芋と焼餅を売っている露店があり、出発時の「適当に買い食いしてお腹を満たして下さい」との山口リーダーの指示を早速実行するメンバーが少なからずいました。ここから県道を歩き、老川溪谷観光センターに 11 時 45 分着。ここでトイレと昼食。私はシイタケの串焼き 200 円を買い食い。路線バスに乗るメンバーと別れ、更に県道を養老溪谷温泉街に向かう。近年、インスタ映えする写真が撮れると人気の上下 2 段トンネルを抜け、養老川に沿った中瀬遊歩道を歩き、養老溪谷駅に 1 時 50 分到着。心配したが、2 時 12 分発の電車に十分間に合う。ここから有志で車に分乗して今年の 10 月に国の天然記念物に指定されたばかりのチバニアンに。市



原市が新しく整備した駐車場から下り、先程歩いた場所の下流部になる養老川の浸食崖に赤・黄・緑の目印鉋が打たれた 77 万年前の地磁気逆転層、チバニアンを見学し

て終了。この露頭が正式に国際認定され、ゴールドスパイクが打ち込まれるまでにはまだ 2 段階の審査があるとのこと。養老溪谷駅まで 11.2 km、私の歩数計では家までで 2 万歩強でした。

親子で楽しむ山登り “大日山ハイキング” 12月16日（土）三品京子



この冬一番の冷え込みの朝、親子19名、茂原市子どもセンターのスタッフと一緒にいざ大日山へ、車中では昨年好評だった地図記号クイズ、今回も高橋琢子さんが子供たちに画用紙に書いた地図記号を出すと昨年問題は次々に大きな声で正解が、新しい地図記号には今日登る山の地形を解説しながら答えに導き車内は大いに盛り上がった。9:45登山へ出発、間島ダムを見ながら林道を歩く。

途中植物や地層の説明を聞きながら七滝の一つ坊滝の滝壺へ下り落差25mの滝を見学、裏坊滝を進むと急傾斜の階段、子供たちは元気に登って行くが大人はペースダウン、何とか歩を進め11:50山頂に到着。

5月の下見では木々の葉で見ることができなかった東京湾と房総の山並みが一望でき、曇の隙間から鋸山にだけ日が差し何とも言えない山の景色を見ることができた。

グループに別れ昼食と山頂の散策を楽しむ、12:30小雨が降りだすなか少し歩きを早め下山、13:25バスの待つ駐車場へ全員無事に到着。

子どもたちから‘山に始めて登ったけど楽しかった’‘来年も参加したい’‘今度はどの山に行くの?’などの声を聞く事ができ嬉しい山行となった。

晴香園の子どもたちと鋸山 1月19日（土）香高真奈美

さあ今日は楽しいロープウェイに乗って鋸山ハイキング！と浜金谷駅に降り立つと・・・なんとロープウェイは定期点検の為に運休中。

気を取直して皆で体操して9:30から登山開始。「高橋サンより前に行ってはダメよー」と先導の琢子さんが言うくらい、子供たちは元気にとび跳ねている。轍の跡が残る車力道、遥か上の方まで垂直に切り立つ石切場跡。歩いたおかげで石切りの歴史を自分たちの目で見る事ができて良かったかな。

参加者 晴香園 子供6人、職員2人、

千葉支部 三木雄三、高橋琢子、鈴木操、中田彩、吉田望、香高真奈美



ランチを食べて、地蔵のぞきで絶叫、日本寺の31mの大仏さまを静かに拝んで下山。ミッキー支部長は変わらず慕われていて、両方の手を子供と繋いでいる。境内の満開の紅梅林が我らを見送ってくれた。

保田駅14:12の電車で帰路につく

鋸山は晴香園と何度も訪れている山。私がまだ入会した頃の頃に一緒に登った子らは今は18才位だろう。私ができる事は彼らの健やかな成長を祈る事だけだ。

そして山はいつでもどっしりと、子供たちを私たちを見守ってくれている。

## 鍋 割 山 山 行 記

12月15(土)～16日(日)

小川和敏

「丹沢に始まり丹沢に終わる」と謂われる丹沢山系。その中の鍋割山頂上にたつ鍋割山荘に1泊のピスター倶楽部の忘年山行です。渋沢駅に10時に集合。男性6人、女性3人の総勢9人で表丹沢県民の森へタクシーで向かいます。恒例の準備体操をして10時半にスタート。林道を二股まで進み、すぐに小丸尾根に取付きます。静かなヒノキ林の中をいい感じで登ると12時、広めの休憩ポイントで昼食タイムです。標高差はさほどでもないのですが、なかなか小丸に着きません。まだかまだかと急なジグザグ登りを繰り返しようやく小丸に14時半着。雲に浮かぶ富士山が迎えてくれました。夕暮れ近い陽射しの中をアップダウンをこなしつつ小屋には15時半到着。松田Lが30年以上の常連ということもあり、

小屋主の草野さん一家に熱烈な歓迎を受けました。さてさて宴会の始まりです。古希を迎えた草野さんが現在も40キロほどの歩荷を毎日やっているとの話に感心しきり！全盛期は何と100キロ以上です。軽い荷物で登っている我々は足を向けて寝られません。夕食は山小屋の食事とは思えない内容でビックリです。



天ぷらに始まり、寄せ鍋・・・最後にはメのうどん。徐々に夜も更けてきて三々五々寝どころへ。翌朝聞いた話では、お二人ほどが寒い寝どころへ戻らず食

参加者：L松田宏也、SL山口文嗣、岩尾富士夫、柳川しげよ、湯下正子、羽藤美代子、梶田義弘、山崎完治、小川和敏



堂のコタツで一夜を明かしたとのことでした。当然、一晩中寝酒を呑みつつ・・・だと思われま。果物の多く付いた朝食を頂き、今日はゆっくりと後沢乗越経由で下山です。下り始めると歩荷のために昨夜

下山した草野さんと出会いました。再会のご挨拶を交わしたあと、名物の鍋焼きうどん目当ての多くの登山者とすれちがいがながら下っていきました。後沢乗越から、かの有名な山荘のペットボトル置き場、そして二股へ。ここからは、単調な西山林道を5kmほどテクテクと歩きます。渋沢駅前のいろは食堂での反省会のことを楽しみに・・・大倉に着いた時にはグッドタイミングで渋沢駅行きのバスが入ってきました。いろは食堂の内容がまたまた・・・カンパチ、アジの刺身、クエの煮つけ、ワラビほかの田舎料理に舌鼓、お酒が

進みます。結局、だれも反省はしなかったような？満足感にひたりながら帰宅の途に着きました。ゆったりとした良い忘年山行でした。

## 新年山行「笠石・寂光不動」

1月13日 三田 博

木更津駅 8時20分発の鴨川行き日東バスに1時間ほど揺られ、清和県民の森近くで下車、マイカー組と合流する。今日の出発地点である旅名フルーツ村で、準備体操して歩き始める。フルーツ村の園内を登っていくと、まだ1月なのに早咲きの桜が咲き始めていた。

害獣除けの柵を開けて、登山道に入る。岩が多い尾根道をしばらく歩くと奇岩「笠石」だ。岩場の上に平たい大きな石が乗っている。せっかくなので、順番にそーっと登ってみる。この先も登山道は、馬の背？蟻の戸渡り？ありで油断できない。岩には苔が付いて、いかにも滑りそうで怖い。

途中の展望台に鎖を掴んで攀じ登ると、正面に高岩山の最高峰・八郎塚が見渡せた。そのあとも



岩場のアップダウンを繰り返して、寂光不動へ到着。寂光不動は、切り立った崖の中腹に柱を立ててお堂を作り、不動明王を祀っている。裏側から岩場を攀じ登って、崖の上の寂光不動「奥の院」へ。ひとしきりスリルを味わった後は、ぽかぽか



した日なたで昼食を取った。

帰りは、もと来た道を少し戻り三島湖へ向かう尾根道へ行く。今回計画していたバリエーションルートだ。地形図には出ていないが、踏み跡と赤テープがあり安心した。ところが、しばらく進むと、Mさんが尾根から足を滑らせて、5、6mほど滑落してしまった！ 幸い落ちた場所が落ち葉で柔らかかったためか、腰を打ったが大事には至らず、なんとか自力歩行することができた。途中、林道へエスケープすることにして、マイカー組に車を取りに行ってもらった。帰りのバス時刻もあるので、2台でピストン輸送してもらい、元気がまだある人はバス停目指しランニングして、当初予定のバスに全員乗ることができた。思わぬトラブルがありましたが、帰りには木更津の居酒屋でミニ新年会もおこない、年の初めの厄落としになったとかならなかったとか。

参加者：三田博（L）、三品京子（SL）、宮崎美智代（SL）、山口文嗣、山田紀夫、三木雄三、高橋正彦、高橋琢子、松田宏也、小林義亮、梶田義弘、梶田天兵、鈴木操、吉田明子、小板橋志郎 ※集合写真の手は小板橋さんです。

## 烏尾山と塔ノ岳

1月19日(土) 三品 京子

小田急新宿駅に集合し小田原行き 7:31 に乗車、  
渋沢駅 8:47 着、8:55 発大倉行きバス 9:10 着、  
各自身支度を整え 9:22 風の吊橋を渡り戸沢林道  
を歩き新茅山荘登山口に 10:30 到着。山本リー  
ダーが山美化のゴミ袋を出しながら「今日はゴミ  
ないと思うよ」と一言、先週同じコースの下見で  
全部拾ったからとの事、納得。烏尾山を目指しト  
ップ三田さん、私、宮崎さん、山本さんの順でい  
よいよ登山開始、いきなりの急登に息が上がる。  
一本桜を過ぎ最初のビューポイント、松の木越し  
に今年初の富士山を拝む、小休憩し、烏尾山山頂  
12:11 到着。ここで昼休憩、風が強く降った雪が  
日陰に残っていた。汗をかいた体が冷えてくる。  
山頂からは富士山の全景を見ることができ得した  
気分になった。12:38 出発、表尾根を進む。日の  
当たる所は雪が溶けてぬかるみ、日陰は凍って滑  
らないよう注意して歩いた。行者ヶ岳の手前の岩

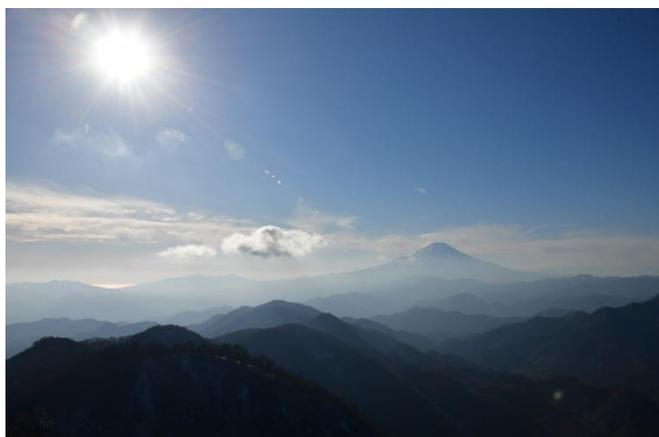


場、鎖場を慎重に下り政次郎ノ頭を通過して新大日  
到着。

ここから塔ノ岳は一本道、迷うことはないとの  
事で富士山をタイムラプスムービーで撮影のため  
山本さんは一足先に山頂へ向かった。それぞれ後  
を追うが離され姿が見えなくなる、山本さんの体  
力に完敗でした。

塔ノ岳山頂 14:17 到着、見晴らしの良い山頂は  
大勢の登山者で賑わっていた。遠く新宿の街、  
そして相模湾も望める、富士山を眺めながら休  
憩をとった。

大倉尾根 14:57 下山開始、長い階段が続くと聞  
いてはいたが歩き難く膝を傷めないように歩く。  
登山者と何組かすれ違う、これから山頂ならば尊  
仏山荘泊かなと。小草平を通り見晴茶屋付近にな  
ると山影に入り日が傾き始め足元が薄暗くなった。  
観音茶屋で小休止し大倉に 17:05 到着、今日一  
日、富士山に見守れての登山となった。



参加者:山本哲夫(L)、三田博(SL)、宮崎美智代、三品京子

## 東京湾から印旛沼ウォーキング②

2月11日（月、祝）

杉本正夫

カラカラ天気が続いた後前々日には関東平野部でも雪が積もり、1日晴れた後当日は曇り時々雪と云う悩ましい予報でしたが、前日夕方に決行を決めました。

1週間前の締め切り日までは参加者は10名をわずかに超える程度でよかったですその後だんだん増え続けとうとう19名まで膨れて頭を抱えてしまいましたが、当日朝には天候や個人の事情で2名欠席となり、特別参加の竹園さんの友人を含め総勢17名が千葉ニュータウン中央駅に集まり、簡単な説明とストレッチを行い、ちらちら雪の中を出発しました。この時ウォーキング特有問題で、歩こう会では一般的な地元住民とのトラブル発生を自制するため相手に名前が知られるよう名札を配りました。

かなり広い花の丘公園を通り抜け、戸神川、神崎川の土手を通り新川に来たところで「あ！咲い

ている」の声に、よく見ると桜並木の内数本の木に5~6輪の河津桜がこじんまりと咲いていました。この時期ならもっと咲いてもよさそうなのだと思いますが雪の中の花見は無理かと納得しました。道の駅八千代で昼食を取って体も温まり腹も膨れた所を出発ですが、膝に痛みを抱えた梶田さんと息子の天兵君がバスで帰ることで離脱しました。ここからは新川右岸を進みましたが、河津桜はないので、坊主の桜並木を見ながら八千代図書館に達して寒さを防ぐため中で休憩です。ここから今回のメインテーマの一つである新川と花見川を結ぶ難工事の歴史の話を聞きに八千代郷土博物館に行き、館員の常松氏からスライドを使って分かり易く解説していただきました。

最後に一回目と同じゴールに達し、一回目と二回目が繋がり無事終了しましたと思いきや、リーダーとして大失敗。出発までの長い文章が伏線ですが、人数が多く歩行速度がバラバラで、纏まった歩行には程遠く、また雪空の寒さで休憩は道の駅、図書館、博物館と屋内で他の方と一緒に休み、ここでも纏まりがなく、休憩から歩きだすときは落ちこぼれがないか人数だけに気遣ってしまい、結局集合写真を撮るのをすっかり忘れ、会報に乗せる写真は分水界の象徴たる大和田排水機場だけになってしまいました。参加者の皆様、会報担当の吉野さん本当に申し訳ございません。



参加者：杉本正夫(L)、小林義亮、高橋琢子、大浦陽子、塩塚生二、吉田望、新井好夫、香高真奈美、柳下忠義、三木雄三、國宗文、竹園清隆、その友人、津田麗子、梶田義弘、梶田天兵、山崎完司、17名

## 冬の北八ヶ岳（東天狗岳）

12月27日（木）～29日（土）

坂上光恵

クリスマスから強い寒気団が来て、強風に要注意という天気予報が連日テレビや新聞で言われ、どうなることかと心配の日々だった。しかし、山は行ってみなければ分からないので、ダメな時は山小屋でゆっくりしてもよい、と行くことになった。12/27☀のち☁ 佐久平から久しぶりの小海線に乗り、松原湖駅で 11 時 10 分、車組の松田さん、三田さんと合流。車も高速道路があまり混んでいなかったそうだが、上野からたった 2 時間 10 分で着てしまうのは、疲れもなく利器だなあと実感。例年より雪が遅いようで、凍ったところもあまりない林道を稲子湯に 30 分ほどで到着する。装備を確認して 12 時 30 分出発。暮れということもあり、殆ど登ってくる人がなく、静かで、澄み切った空気を楽しみ、ゆったりした気分ですらびそ小屋にコースタイムどおりに 15 時 30 分に到着。松田さんの知り合いの小屋の奥さんが部屋を暖かくしておいてくれ、よく来たわねー、と温かく迎えてくれた。寒い小屋を覚悟していたので、心も体もほっこり。内からも温めようと乾杯。外は風もあまり無く前のみどり池も真っ白に静まりかえっている。明日の天気が気になりつつ就寝。12/28☁6 時 30 分起床。やはり風は強くない。いずれにせよ中山峠に出れば吹かれるだろうと覚悟して、8 時 30 分 クランポンを着け、アイスアックス（私は右だけはストック）を持ち出発。ここからは樹林帯の中を 1 時間ほど進むと少し急な登りになってくる。いよいよここを上がると中山峠に出て、ビューと風が「メンバー」松田宏也（L）、三田博、坂上光恵



くるなと思いつつ右に稲子岳、左に天狗岳の雪を被った壁を見ながら気を引き締める。中山峠に 10 時 25 分到着。前日と同じにコースタイムどおりである。1 本をとり様子を見ても、どうも強風に飛ばされるような状況ではなさそう。ここからは時々人に会うようになるが、聞くと、黒百合平に行く人たちが殆どのである。稜線上はやはり強風が吹くので、エビのしっぽがだんだん見られるようになり、岩稜帯の下の木は、幹も枝も真っ白に氷り、白いサンゴの林のようで美しい。それを過ぎるともう頂上は近い。12 時、360 度の展望がある東天狗岳に到着。北八つ方面は何とか眺望があるが、南は西天狗岳の少し先が見える位である。大した風もなく楽しみながら来られたことに満足し、下山開始。夏は岩がごろごろして歩きにくい道も、雪のせいでずっと歩き易く、しらびそ小屋に 3 時前に着いた。天候に恵まれ、静かな趣きのある山行を楽しんだ。

## 早春の三浦アルプスを楽しむ

2月23日(土)

吉野 聰

鋸山から東京湾を望むと、まず対岸に巨大な3本の煙突が目に入る。(東京電力横須賀火力発電所のお化け煙突) 普段はそこから目を更に奥の方にズームして、富士山が見えたか、見えなかったかで一喜一憂しているのだが。

今回は、そのお化け煙突のすぐ後方にある三浦アルプスを歩き田浦梅林の梅見をして早春を楽しもうという計画だ。計画書によると、JR 逗子駅をスタートして仙元山、南尾根から観音塚、さらに東尾根を進み乳頭山、そして田浦梅林で梅見をして田浦駅に出る約9キロのコース。18人のメンバーがA、B2班に分かれて歩くのだ。

9時30分、準備体操をして、まずは桜で有名な仙元山(118メートル)の頂を目指しやや急な坂を登り始める。振り返ると湘南の海に浮かぶ江の島と遥かに富士山の頂上がかすんで見える。仙元山を過ぎ南尾根に入り250段の階段を上り、椎の木を中心とした自然林の中を歩く。木の根が露出して歩きづらい。南房総の樹相と類似している。1時間後、観音塚に着く。ここは馬頭観音が祀られ、この道が昔の生活道路であったことが想像される。この先は自然林が後退して笹竹の繁茂の中を歩くことになる。風も弱まり、やぶの間から暖かい日差しが差込んでくる。春が近づいていることを感じながらゆっくりと進む。さすがの人気コース、ポイント、ポイントで多数のグループに遭遇する。我がグループもA班・B班が詰まって歩く。



最高地点(211メートル)をすぎ、すぐに乳頭山(208メートル)へ。頂上からは横須賀の港が見え、東京湾を隔てて房総の丘陵がかすんで見渡される。

乳頭山から田浦梅林へのコースはきつい下りで、坂ごとに前の組が立ち往生して渋滞が発生している。我々も据え付けられたロープにつかまり慎重に下降する。

田浦梅林では紅梅、白梅が咲き誇り、ちょうど梅まつりの真最中、梅を見ながらベンチで「三浦アルプスって人気の山なんだね」「低い山だと思っていたけれど、意外に手強かった」「乳頭山から房総半島が見えて良かった」など話が弾む。

15時50分、全員無事に田浦駅到着。駅前で整理体操をしてひとまず解散。

なお、今回の標高等のデータは竹内進さんの奇跡図タを使わせていただきました。有難うございました。

参加者 《A班》松田宏也(CL)、湯下正子、櫻田直克、小川和敏、吉永英明、能美勝博、竹内進、高橋琢子(SL)、竹園清隆、《B班》吉野聰(SL)、羽藤美代子、三木雄三、香高真奈美(SL)、杉本正夫、塩塚生三、新井好夫、吉田望、鎌谷繁、

## 郡界尾根踏査を終えて

山口文嗣

千葉支部では房総半島の郡界尾根踏査を2014年11月から4年間に渡り実施し、昨年暮れに無事踏査を終了することが出来た。

房総半島の郡界尾根とは大まかにいうと、半島南部の安房国（旧安房郡・長狭郡／現鋸南町、鴨川市等）と北・東側の上総国（旧天羽郡・周准郡・夷隅郡／現富津市・君津市・勝浦市等）を分けている尾根である。半島南部を南北に分け東西に約60kmにわたり延びている。具体的には西から鋸山の裾で東京湾に突き出ている明鐘岬からスタート、東に向かい一等三角点峰の鋸山に登り、スイセンで人気の嵯峨山、津森山に至る。津森山からは房総半島の分水嶺と同一ルート上を東進し、木之根峠、安房高山、元清澄山へと進む。元清澄山からは分水嶺と別れ北に迂回し、東京大学千葉演習林の中を通り、アジサイで有名な麻綿原高原付近で再び分水嶺を横切り南下、内浦山県民の森を通り鴨川市



と勝浦市境で太平洋に達している。

2014年11月会員・会友16名が生憎の冷たい雨と強風の中、東京湾を望む明鐘岬をスタートした。車力道から鋸山一等三角点に登り、林道口から下山した。その後4年にわたり、夏の暑さとヤブ、ハチの襲撃とヒルの被害を避けるため主に11月から3月に踏査を続けた。

昨年暮れの12月8日会員・会友23名が参加し、日蓮上人が小松原法難で受けた疵を洗ったという疵洗いの井戸がある日蓮寺の裏山から、孝行娘おせんが身投げをしたという悲話の伝わる、おせんころがし付近の鴨川市と勝浦市の市境の太平洋岸に到達した。この間21回の山行を重ね会員・会友40名が延べ206回参加した。

2009年10月から2013年3月の房総半島分水嶺踏査に続き、郡界尾根踏査を終わらせることが出来た。今後は郡界尾根踏査報告書の刊行を目指すと同時に、次に千葉支部として取り組むべき課題を会員・会友の皆様の知恵を借りて探っていきたい



こんにちは

## 子ども達との交流が楽しみ

中田 彩

東京都新宿区在住の中田 彩と申します。

一昨年の尾瀬山行で千葉支部の皆様にお世話になったことがきっかけで、昨年より千葉支部に所属、山行等に参加しています

高校生までも金沢で過ごした影響か、東京で長く暮らすにつれ、自然のそばで時間を過ごしたいとの思いが強まり、山に登り始めました。

山も草木も全て自然の摂理に従い生きていること、そしてその姿がとても美しいことが、山が大好きな理由です。

ここ2年では奥多摩の山々(高水三山、棒の嶺、御嶽山、大岳山、三頭山、雲取山)、箱根の山々(金時山、明神ヶ岳、湯坂路)、奥日光、尾瀬ヶ原、燧ヶ岳、白山、月山、早池峰、秋田駒ヶ岳、守屋山、天狗岳から北八ヶ岳に行きました。新緑、秋の紅葉、湖や、眺望、どれも素晴らしかったのですが、シラユキソウ、フウロなど小さく美しい品のある花々が咲く月山、早池峰がとくに心に残っています。

千葉支部にて参加させていただいて晴香園の子どもたちとの山行も、子どもたちとの交流が楽し



く、大きな喜びです。今年一月の鋸山も、晴天に恵まれ、遺跡のような石切場、展望台から見えた富士山、由緒正しい日本寺、など満喫しました。子ども達もとても楽しそうで、たくさん元気をいただきました。

歳を重ねてからの山登りではありますが、自然を楽しむトレッキングに加え、数年のうちに北アルプスにはチャレンジしたいと思っています。また、千葉支部主催の公益事業にも、参加し続けたいと思っています。

### 四支部合同懇談会千葉支部参加者

岩尾富士夫、三田博、松田宏也、三木雄三、高橋琢子、節田重節、山口文嗣、羽藤美代子、神山良雄、吉田望、吉田明子、鈴木操、梶田義弘、梶田天兵、小林義亮、山田紀夫、柳下忠義、吉野聰、山本哲夫、石岡慎介、青木次郎、小疇尚 (22名)

## 山 行 計 画 (4月以降) 支部行事含む

4月以降の山行計画を掲載します。7月までは確定です。8月以降は山行委員会で調整中です。参加希望の方はリーダーに申し込みください。8月以降の計画については改めて次号に掲載しますが必要な方はリーダーに問合せ下さい。皆さまの参加をお待ちしております。

### (支部山行)

	山 系 名	難 度	備 考	リーダ－	締切
4.6(土) ～7(日)	虹芝寮ミーティング		栃木・群馬支部との懇談会	三田 博	終了)
4.13 (日)	房総の岩場 (裏鋸)	C	岩稜登山技術向上 (初級岩登り教室①)	山本哲夫	4.7(日)
4.14 (日)	東京湾から印旛沼 ③	W	9:00 京成勝田台駅集合	杉本正夫	4.7 (日)
4.29 (月)	高川山	B	初狩～大月駅へ	三田 博	4.27(土)
5.3 (金) ～5 (日)	尾瀬	D	残雪の尾瀬	三田 博	4.13(土)
5.12 (日)	千葉支部総会		千葉市文化センター		別途通知
5.25 (土) ～26 (日)	全国支部懇談会		日光アストリアホテル	三田 博	申込完了
6.14 (金) ～15 (土)	三つ峠	B	アツモリソウ (初級岩登り教室②)	山本哲夫	6.7(金)
6.29(土) ～30(日)	初級沢歩きと焚火旅	B	丹沢又は奥多摩の沢 テント又はツェルト泊、フェルト底 の溪流タビ又は溪流シューズ	山口文嗣	6.14(金)
7.7 (日) ～8 (月)	平標山・仙ノ倉山	C	「平標山の家」泊り	三田 博	6.14(金)
7.24(水) ～28(日)	北ア 雲の平・鷲羽 岳・黒部五郎岳	C	折立から小屋4泊	三田 博	7.1(月)
8.2(金) ～6(火)	北ア 劔岳と周辺	D	岩と雪の殿堂 初級岩登り教室①②参加が条件	山本哲夫	7.22(月)
8.11(日)	ビールパーティ		詳細は次号。「山の日」		
9.5(木) ～9(月)	南ア・聖岳～光岳	D	南アの深部、3度目の正直	山本哲夫	
9.14(土) ～16(月)	中央 木曾駒～空木岳	C		山口文嗣	
10.3 (木) ～5(土)	裏岩手・三ツ石・八幡 平	C	裏岩手の紅葉巡り(避難小屋泊) 定員5名	三田 博	

日本山岳会千葉支部

10.13(日) ～14(月)	平ヶ岳	B	定員 10 名 (昨年悪天候で中止)	山口文嗣	
11.3(日) ～4(月)	雲取山	C	展望良し、人気の山	三田 博	
11.9(土)	奥秩父・雁ヶ腹摺山	B	500 円札富士山撮影地	松田宏也	
11.16(土)	三石山、元清澄山	B	房総のパワースポット	三田 博	
11.30(土)	筑波山	B	初冬を楽しむ	松田宏也	
12.7(土)	年次晩餐会		別途連絡		
12 月未定	房総		忘年山行		

(ビスターリ倶楽部及び個人山行の計画)

日程	山 系 名	難度	備 考	リーダー	締切
4.22(月) ～23(火)	蝶ヶ岳	D	新緑と残雪の山	三田 博	4.15(月)
4.26(金) ～29(月)	佐渡の山 <b>B</b>	C	泊 節田さん宅及びトンデン山荘	松田宏也	申込終了
5.10(金) ～11(土)	袈裟丸山+α <b>B</b>	B	アカヤシオ 車使用 (定員 4 名)	松田宏也	4.29(月)
5.18(土) ～19(日)	八ヶ岳・編笠山 <b>B</b>	B	遠い飲み屋泊	松田宏也	5.12(日)
6.2(日) ～3(月)	十文字峠～甲武信岳 <b>B</b>	B	アズマシャクナゲと新緑 定員 4 名	松田宏也	5.12(日)
6.16(日) ～19(水)	東北(岩手) <b>B</b> 栗駒、焼石、早池峰	C	花畑紀行、残雪有 3泊4日 定員 8 名	松田宏也	5.19(日)
7.11(木) ～13(土)	山形蔵王～月山 <b>B</b>	B～ C	コマクサ花紀行 2泊3日	松田宏也	5.31(金)
7.12((金) ～.19(金))	北海道の山旅一週間	D	利尻・幌尻岳他	山本哲夫	6.12(水)
7.20(土) ～24(水)	北ア 針ノ木～鹿島槍 <b>B</b>	C	針ノ木大雪溪から蓮華岳、鹿島槍 山小屋3泊4日	松田宏也	6.16(日)
8 初旬	籠ノ登山 <b>B</b>	B	のんびりと夏山を 1泊2日	松田宏也	
8 下旬	鳳凰三山 <b>B</b>	C	南ア 前衛峰 2泊3日	松田宏也	

9 初旬	霧ヶ峰と北八が岳 <b>B</b>	B	初秋を感じる山 2泊3日	松田宏也	
10 中旬	尾瀬 <b>B</b>	C	山小屋泊 2泊3日	松田宏也	
10 下旬	皇海山+α <b>B</b>	C	民宿泊 1泊2日	松田宏也	
11.2(土) ~3(日)	八ヶ岳遠い飲み屋 <b>B</b>	B	小屋締め	松田宏也	
12 中旬	八ヶ岳(北横岳) <b>B</b>	D	冬山初心者	松田宏也	
12 下旬	シーズン初スキー <b>B</b>		群馬もしくは長野方面	松田宏也	

ビスターリ倶楽部及び個人山行表の山系名枠内の**B**はビスターリ倶楽部を表す。

リーダー連絡先及び難易度は15ページ下欄に記載

## 第8回 登山教室指導者養成講習会に参加して

宮崎美智代

2月16~17日登山教室指導者養成講習会が行われた。参加者は17名、千葉支部からは2名の参加だった。

1日目は講義、2日目は実技に分かれ、講義は安藤百福記念自然体験活動指導者養成センター、実技は高峰高原・水ノ塔山で行った。

講義内容は1、山岳遭難の現状から学ぶこと 講師:長野県警察山岳救助隊 総括班長、2、登山における積雪と雪崩の基礎知識 講師:富山県立山カルデラ砂防博物館 学芸課長 3、登山教室実施要領 講師:日本山岳会副会長 4、実践セルフレスキュー 講師:日本山岳会遭難対策委員長

実技内容は1、雪崩対応として、弱層テスト(ハンドテスト) 2、埋没者探索(プロービング)(アバランチトランシーバー) 3、掘り出し法(V字コンベアベルト法) 4、緊急収容 スノーマウンツの作り方 5、雪上搬送 シート梱包・ロープ結束 6、ハーネス

シュリングセットを使った危険箇所での実技

スケジュールを見た時は、2日間で行うには内容が濃く全てこなせるか、不安な面もあったが、皆様、丁寧にお話を下さって無事に終える事が出来た。

今回、講習会に参加させて頂き、支部山行でリーダーをされている方々のご苦勞が少しでもわかる良い機会となったと思う。



## 役員会の報告

**12月報告** 12月18日(火) 美弥和 役員会終了後忘年会

出席者 三木、山口、松田、三田、三品、吉永、塩澤、岩尾、平出、柳下、安間、小川、結城  
青木、吉野 15名

- ・ 4支部懇談会 内浦山にて
- ・ 支部山行 仙丈ヶ岳 8.25~26 10名、 聖岳・光岳中止
- ・ 山行計画 10.7~8 平が岳、10.18 唐沢山、11.10 百蔵山、11.24 奥多摩、12.4 郡界尾根
- ビスターリ倶楽部 信越トレイル、編笠山、鎌倉アルプス、赤岳
- ・ ネパールトレッキング概要、
- ・ 支部だより 20 ページ

**1月報告** 1月15日(火) 市川アイリンク

出席者 三木、山口、三田、三品、山本、山田、吉野 7名

- ・ 支部山行報告 (12/8.19 郡界尾根忘年山行、1/13 笠石、寂光不動)
- ビスターリ報告 (12/15.16 丹沢. 鍋割山、12.27~29 北八. 天狗岳)
- ・ 山行予定 (支部：1/19 鋸山 (晴香園)、1/19 丹沢、1/26 湘南アルプス、2/9 高岩山、2/11 印旛沼、  
ビスターリ・個人：1/20~22 尾瀬スキー、2/2.3 赤岳、2/9.10 蔵王スキー)
- ・ ネパールトレッキング
- ・ 2019年度事業計画・予算
- ・ その他

**2月報告** 2月12日(火) 市川アイリンク

出席者 三木、吉永、山口、松田、三田、三品、山本、山田、上村 9名

- ・ 支部山行報告 (1/19. 鋸山 晴香園、1/19. 丹沢、2/11 印旛沼)
- ビスターリ報告 (2/9.10. 山形蔵王スキー)
- ・ 山行予定 (支部：2/23. 三浦アルプス、3/2 高岩山、3/30 高川山)
- ビスターリ・佐渡ヶ島ほか
- ・ 4支部懇談会 役割分担確認、
- ・ ネパールトレッキング、
- ・ その他

リーダー連絡先	
杉本正夫	支部だより参照
松田宏也	支部だより参照
三木雄三	支部だより参照
三田 博	支部だより参照
山口文嗣	支部だより参照
山本哲夫	支部だより参照

(五十音順)

### 難 易 度

- W** ウオーキング、  
**A** 整備され歩行2~3時間、  
**B** 歩行5時間前後、  
**C** 歩行7時間前後、一部岩あり体力要、  
**D** 強い体力、岩技術要、  
**E** 高い適応能力要、危険度大  
 (難易度はJAC日本300名山を参考。  
 岩・沢及び積雪期は難易度アップとする。)

## お知らせ

### ●会員の動向

#### 【入会】

Y K さん () 市川市 《会友から》

K F さん (会友) 野田市 《紹介者・坂上光恵》

#### 【退会】

K T さん (会友)

【訂正とおわび】支部だより 45 号の入会者・M S さんのよみがなは (M S) さんでした。

### ●2019 年度 支部総会のお知らせ

2019 年度の通常総会を下記により開催いたします。この総会において 2018 年度事業及び決算報告、2019 年度事業及び収支予算計画など審議いただきます。当日の日程、議案等関係資料につきましては、郵送させていただきます。また、総会終了後には恒例の「美弥和 (みみわ)」での懇親会を予定しております。

日時 2019 年 5 月 12 日 (日) 午前 9 : 30 ~ 12 : 00

場所 千葉市文化センター 9F 会議室

〒260-0013 千葉市中央区中央 2 丁目 5 番 1 号

TEL : 043-224-8211

総会 10 : 00 ~ 10 : 50

記念講演 11 : 00 ~ 12 : 00 (未定)

懇親会 12 : 30 ~ 14 : 30 美弥和 (みみわ) 本店 043-225-5377

### ●千葉支部メール配信しています

支部だよりに載らないニュースや連絡事項、他の支部の支部報など様々な情報をメールにて配信しています。まだ登録していない方で配信を希望する方は、下記アドレスへ「支部メール配信希望」とメールをして下さい

### ●登山計画書の提出を(再掲)

安心安全のため計画書は必ず作成して下さい。家族や職場に残すとともに、支部へ提出して下さい。万が一の時の手掛かりです。

メール受付窓口: 支部だより参照

#### 後記

3 月 5 日(火)~15 日(金)までネパール・ヒマラヤトレッキングに参加してきました。帰ってきて大急ぎで最終の編集をして、今終わったところです。皆さまには原稿の締め切りを早めてもらったり、いろいろ無理なお願いをしたところです。改めてお礼申し上げます。

トレッキングについては次号(7 月号)で特集を組みお知らせする予定ですが、素晴らしい体験をして全員元気で無事に帰国したことを、まず報告します。 (広報委員会 S.Y)

